

## 四 中国をめぐる列国との関係

361 昭和9年1月10日

在米國武富(敏彦)臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米国復興金融会社(RFC)の対外貸出し期限

延長の形勢について

ワシントン 1月10日後発  
本省 1月11日前着

第一九號

貴電第二九〇號ニ關シ

RFC總裁「ジョンズ」ハ九日議會ニ對シ其貸出期限ノ延長(一年乃至三年)及資金ノ増加(五億乃至十億ニ關スル立法方ヲ提議シタルニ對シ上院銀行及通貨委員會委員長 Fletcher ハ主義ニ於テ之ニ同意シ一年間延長及八億五千萬弗增加ニ關スル法案ヲ提出スヘキ旨約シタル趣ナルカ他方下院銀行及通貨委員會委員長 Steagall ハ三年間延長及五億弗増加案ヲ提出シタル由ニテ之ヲ要スルニRFCノ貸出期限延長ハ結局或程度迄ハ實現セラルヘキ形勢ナリ不取敢

ル次第ナリ

二、然ルニ冒頭貴電RFC貸出期限ノ延長ニシテ成立センカ恐ラク支那側ハ本件借款契約期限ノ延長方(契約第十四条後段)ヲ要求スルニ至ルヘク而シテ右要求ニシテ達成セラレムカ折角死滅ニ瀕シ居ル本件借款ハ再ヒ息ヲ吹キ返スコトトナル虞アリ

三、尤モ右RFC貸出期限ノ延長ハ米國側トシテハ本件借款以外ノ目的ノ爲ニモ必要トスル所ナルヘク又法律案ノモミツブシ等ヲ「コングレス」側ヘ運動スルカ如キハ如何カト存スルモ國務省側其ノ他適宜ノ方面ニ適宜勧キ掛けRFC貸出期限ノ延長ニ拘ラス本件借款契約ヲ延長セシメサル様仕向クルコト肝要ナリ

四、就テハ貴電法律案ノ提出セラレタル此ノ際機ヲ逸セス國務省側其ノ他ニ對シ累次ノ往電御参照ノ上(イ)日本國民ハ

本件借款ヲ以テ支那側ノ抗日運動ニ對スル米國ノ援助ト考ヘ非常ニ惡感情ヲ抱キ居ルコト(イ)本件借款ハ支那ニ關スル限り單ナル商取引ニ非スシテ政治借款ナルコトツテ右日本人ノ考モ不當ナラサルコト(イ)本件借款ハ本邦紡績乃至ハ在支邦人紡績ニ不當ノ「ハンディキヤツプ」

362

昭和9年1月13日

在米國武富臨時代理大使宛(電報)  
広田外務大臣より米中棉麦借款貸出期限延長動向に鑑み同借款  
契約の期限延長阻止につき國務省など関係当局へ勧掛け方訓令

本省 1月13日後8時発

第三號(極秘級)

貴電第一八號ニ關シ

一、米麥借款ハ財政諮詢委員會ノ計畫等ト相俟チ宋子文一派カ曰本ヲ除外シ外國ノ援助ニ賴ラムトスル意圖ニ出テタルモノナルコトハ前記委員會計畫ノ經緯等ニモ顧ミ疑ナキ所ナルカ支那側ヲシテ斯ノ如キ考ヨリ脱却セシメントスルハ帝國對支政策ノ基調ニシテ從テ我方ハ右委員會ノ設置ヲ阻止スルニ努メ遂ニ略々其ノ目的ヲ達シタル一方歐米ニ於ケル宋子文策動ノ唯一ノ具體化タル棉麥借款ニ付テハ其ノ實效ナカラシムル爲今日迄種々努力シ來リタル結果該借款ハ少クトモ棉花ニ關スル限り實質上殆ト立消ノ觀ニシテ右ノ狀態ヲ本年八月迄(契約第十四條前段)續ケ行ケハ完全ニ其ノ目的ヲ達シ得ヘキヤニ認メラレタ

363 昭和9年1月13日

在米國武富臨時代理大使、在中国有吉公使、在南京日高總領事他宛電報  
広田外務大臣より紐育、英、佛へ暗送アリ度シ  
支、北平、南京へ轉電セリ

米中棉麦借款などの對中國援助が中國問題を悪化させる旨重光次官よりネビル在本邦米国

大使館參事官へ申入れについて

本省 1月13日後9時発

## 合第四九號

九日米國大使館「ネヴィル」重光次官來訪ノ節福建問題等

ニモ顧ミ支那ノ事態益々悪化シツツアルコトニ付キ意見ノ

交換ヲ行ヒタルカ其ノ際次官ヨリ聯盟ノ對支援助米國ノ棉

麥借款等外部ノ統制ナキ對支援助カ却テ支那問題ヲ悪化ス

ル所以ヲ說示シ尙本借款ニ付米國ニ何等政治的計畫アリタ

ルモノニ非サルコトハ自分等ノ諒解スル所ナルモ米國側カ

得ハ恐ラク支那側ノ政治的目的ニ利用セラルヘシト認メラ

ルル一方支那政府ハ借款米棉ヲ著シク廉賣シ居ル趣ナルカ

而カモ借款契約ニハ之ヲ本邦商人ニ轉賣シ得サルヤノ規定

アル由ニテ結果ヨリ見レハ米棉ノ大顧客タル本邦商人ハ現

金取引ナルニ拘ラス支那商人ヨリモ遙カニ高價ナル棉ヲ買

フコトトナル有様ナリ日本ハ支那ニ緊密ノ利害關係ヲ有シ

支那問題ニテ苦心慘澹シ居ル次第ニテ旁々日本人ニ於テ米

國側カ如何ニモ日本ノ利益ニ反スル策動ヲナシ居ルヤノ感

ヲ抱クコトハ當然ナリ米國ノ眞意ヲ知ル自分等ノ説明モ其

ノ效ナキ有様ナリトノ趣旨ヲ述ヘタル處「ネヴィル」ハ本

借款ハ國務省トハ何等關係ナキモノナルモ誠ニ思慮ナキ措

サル旨ヲ同人等限リノ極秘含ミトシテ申聞カセタル上尙借  
款米棉ノ破格的廉價「オファー」カ果シテ支那側ノ眞意ナ  
リヤ否ヤ當ニナラス而カモ多額ノ米棉カ實際廉價ニ支那側  
ノ手ニ渡ル場合ハ兎モ角今日迄ノ輸入量三萬俵ニ過キサル  
ニモ顧ミ當業者トシテモ從來ノ態度ヲ変更スルカ如キハ考  
物ナルヘキ旨說示シタル處同人等ハ之ヲ諒承シテ引取りタ  
ル趣ナリ

本電宛先 支、北平 南京 青島

365 昭和9年1月19日 在米國武富臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米中棉麦借款に対する日本国民の悪感情に鑑  
み同借款契約の期限延長無きよう考慮方國務  
省極東部長へ要請について

ワシントン 1月19日後発

本 省 1月19日後着

貴電第三號ニ關シ  
第四五號(極秘)

一、十八日國務省極東部長ヲ往訪シ豫テ貴官ニ於テ愚ニモツ

## 置ナリキト述ヘタル趣ナリ

本電宛先 米、支、北平、南京

米ヨリ紐育、英、佛へ暗送アリ度シ

広田外務大臣より  
在中国中山公使館一等書記官、在中国有吉

在中国日本紡績同業会船津理事などによる借  
款米棉買付け容認請願に対し我が方不買方針

364 昭和9年1月13日 在中国中山公使館一等書記官、在中国有吉  
公使 在南京日高總領事他宛(電報)

在中国日本紡績同業会船津理事などによる借  
款米棉買付け容認請願に対し我が方不買方針  
説示について

本省 1月13日後9時40分発

## 合第五〇號(極秘)

數日前田邊及船津亞細亞局長ヲ來訪シ借款米棉買付方ニ付  
請願スル所アリタルヲ以テ元來米麥借款ハ宋子文ノ歐米ニ  
於ケル其ノ他ノ活動ト相俟チ宋一派カ日本ヲ除外シ外國ノ  
援助ニ賴ラムトスル意圖ニ出テタルモノナルコトハ殆ト疑  
ノ餘地ナキ次第ナル處支那側ヲシテ右ノ如キ以夷制夷ノ考  
ヨリ脱却セシメントスルハ帝國對支政策ノ基調ニシテ從テ  
前記意圖ニ出テタル本件借款ノ成效ヲ見ルハ甚々面白カラ

カヌ仕事ト言ヒ居ラレタル五千萬弗借款問題ニ付更メテ  
貴意ヲ得置キ度キコトアリト切出シタル上冒頭並累次ノ  
貴電御來示ノ諸項ヲ適宜塩梅シテ説明シ且本件借款ハ今  
日迄ノ所米國側ノ商業上ノ目的ヨリ云ヘハ別段ノ效果ヲ  
上ケ居ラサルカ如キモ支那トシテモ米棉ノ價格支那棉ニ  
比シ高ク又品質モ支那紡績ノ用ニハ餘リ上等ナル等ノ關  
係上其ノ處分ニ持テ餘シ居ル現狀ニテ全支那消費者ノ利  
益トモナラス唯日本ニ於ケル對米反感ヲ刺戟スル丈ケノ  
結果トナリ居ル次第ニテ國務省カ愚ニモツカヌ仕事ト言  
ハルル事由モ益々顯著トナリツツアル次第ナリ尙該契約  
ノ詳細ハ公表セラレ居ラサルニ付自分モ其ノ内容ハ知ラ  
サルカR、F、Cノ契約カ多クハ短期ナルニモ(脱)其ノ  
権限延長セラレタル上ハ本件契約モ何レ其ノ内修正乃至  
期間延長等ノコトアル可ク又其ノ場合ハ國務省ニモ相談  
アルコトト信スルニ付斯ル際ハ之ヲ單ナル「コンマーシ  
ヤル、トランスマーケティング」トシテ看過セラレス本件契  
約ノ日本國民ニ及ホセル影響ニモ顧ミ日米ノ友好關係增  
進上ノ見地ヨリ篤ト何分ノ御考慮ヲ煩ハシ度シ自分ハ近  
ク任ヲ去ル可キモ本件ハ非常ニ氣ニ懸リ居ルヲ以テ特ニ

御話申上ル次第ナルカ日本政府モ同様ノ意向ナルコトヲ  
信シテ疑ハスト述ヘ置キタリ右ニ對シ極東部長ハ御趣旨  
ハヨク了解シ居ルニ付國務次官及不日南米ヨリ歸國ノ國  
務長官ニモ取次キ置ク可シト答ヘタリ

二、從來本件ニ關シ屢々國務省側ニ我方ノ見解及主張等ヲ説

明シ居タル經緯アルモ今日ノ米國ノ國情ヨリ見レハ R F

Cハ豫メ國務省ト充分ノ打合セ等ヲ爲サスシテ斯ル仕事

ヲ進メ行ク實情ナルカ如キニモ鑑ミ本件ニ付國務省側ニ  
働キ掛クルノミ(ニテ)ハ效果充分ナラサル憾アリ然リト

テ直接R F C當局ニ對シ會談スルカ如キハ種々面白カラ

サル結果ヲ伴フ事情モアリ結局支那ノ現状ヲ熟知スル米

人ヨリR F C乃至國務省側ニ「インフルエンス」ヲ及ホ  
サシムル様取計フ事間接乍ラ最モ機宜ニ適スルモノト認  
メ昨夏以來内密ニ斯ル方法ニ依リ努力モ怠ラサリシ次第  
ナルカ如何ニセン現(在)ノ米國トシテハ極端ニ言ヘハ餘  
剩棉麥ヲ太平洋ニ投ケ棄テモ之ヲ處分シタク考ヘ居ル  
位ナレハ支那トノ契約ハ通常ノ取引並ノ利得ヲ齎スヤ否  
ヤ等ノ事ニハ差當リ大ナル關心ヲ有セサルカ如ク從テ當  
方ノ努力ニモ拘ラス今日迄容易ニ目的ヲ達成セサル事情

ハ御諒察アリタク固ヨリ今後トモ盡力ハ怠ラサルヘキモ  
不敢御参考(迄)申添フ

紐育、英、佛へ暗送セリ

366 昭和9年1月23日 在米國武富臨時代理大使より

広田外務大臣宛(電報)

1月23日後発

ワシントン 1月23日後発  
本 省 1月24日前着

米中棉麥借款の減額に関する新聞報道について

往電第六〇號ニ關シ

十九日上海發A、Pハ棉麥借款ノ規定ハ實行不能ナルニ付  
近ク之カ改訂ヲ求ムヘキ旨財政部ヨリ洩ラサレタリト傳ヘ  
タルカ廿二日紐育「タイムス」華府特電ハR、F、C總裁  
「ジョーンズ」ノ談トシテ棉麥借款ノ現狀(冒頭往電參照)  
ヨリ見テ小麥ハ將來一千萬弗貸出サルヘキモ棉花ハ之以  
上多額ヲ貸付ケ得ル見込無ク從テ棉花ノ部分ハ契約ヲ續行  
スル必要無キ譯ナレハ結局本借款ハ多大ノ「サブスタンシ  
アル」減額ヲ行ヒ之ニ當テラレ居ル資金ハ他ニ振向ケラル

第六二號

往電第六〇號ニ關シ

十九日上海發A、Pハ棉麥借款ノ規定ハ實行不能ナルニ付  
近ク之カ改訂ヲ求ムヘキ旨財政部ヨリ洩ラサレタリト傳ヘ  
タルカ廿二日紐育「タイムス」華府特電ハR、F、C總裁  
「ジョーンズ」ノ談トシテ棉麥借款ノ現狀(冒頭往電參照)  
ヨリ見テ小麥ハ將來一千萬弗貸出サルヘキモ棉花ハ之以  
上多額ヲ貸付ケ得ル見込無ク從テ棉花ノ部分ハ契約ヲ續行  
スル必要無キ譯ナレハ結局本借款ハ多大ノ「サブスタンシ  
アル」減額ヲ行ヒ之ニ當テラレ居ル資金ハ他ニ振向ケラル

ル事トナルヘク目下支那代表者ト協議中ナリトノ趣旨ヲ報  
セリ不取敢  
前電通り轉電、郵送セリ

367 昭和9年2月6日 在南京須磨總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

棉麥借款手取り額などに関する唐有壬の談話  
について

南京 2月6日後発  
本省 2月6日後着

ヘク(先般蔣介石モ鈴木武官ニ對シ軍事的ニハ六ヶ月以  
内ニ解決シ得ヘシト語レル由)厄介ナルハ新疆問題ニシ  
テ閻錫山(カ)孫殿英ヲ啄キ居ルラシキモ閻ハ自分ハ敢テ  
動カサルヘシト思ハル)四中全會カ紛糾ヲ見スシテ閉會  
トナレルモ中央努力ノ大ナルヲ示ス證左ト見ルヲ得ヘシ  
但シ中央トシテハ自重ノ態度ヲ執リ差當リ政府ノ改造其  
ノ他ニ手ヲ着クル事ヲ差控ヘ政敵ヲ極端迄追求スル事ヲ  
止メ專ラ事端ヲ起ササル様注意シ居レリ

第九二號(極祕扱?)  
四日唐有壬本官ヲ來訪豫テノ約束通り主トシテ同人ヨリ日  
支關係其ノ他諸問題ニ付二時間餘ニ亘リ最モ腹藏無キ意見  
ヲ開示シタルカ其ノ内御參考トナルヘキ點左ノ通(出所極  
祕トセラレタク特ニ棉麥借款手取額及對露不可侵條約締結  
ニ關スル部分ハ唐ノ要望モ有リ絕對極祕扱ニ願度シ)  
一、今般從來勇名ヲ馳セ居タル十九路軍カ擊破セラレタル結  
果廣東、廣西其ノ他地方軍閥モ屏息シ差當リ中央ニ刃向  
フモノモ無カルヘク(共匪討伐モ今後ハ餘程容易トナル

三、棉麥借款ノ失敗ハ自分等ハ初ヨリ豫見セル處ナルカ近頃  
ハ一般ニ知レ亘リ最近ハ宋自身モ其ノ不成功ヲ自認シ居  
ルラシク從來ノ得タル態度ヲ多少改メタルヤニ觀取セ  
ラル(蔣、宋ノ關係ハ坊間ニ傳ヘラル程惡化シ居ラス)  
同借款ニ依ル手取金ハ五千萬元ト稱セラレ居ルモ實際ハ

現在迄ノ處百九十六萬元ニ過ス(尤モ此ノ點ニ關シ過日)

彭學沛ハ本官ニ對シ専門家ノ談ニ依レハ今夏ノ輸入期ニ

ハ棉花消費力モ增加スヘク從テ相當額ノ手取金ヲ生スヘキ旨内話セルコトアリ)從テ同借款ヲ引當ニシ居ル經濟

委員會モ大ナル事業ハ爲シ得サル譯合ニテ支那側各方面ニテハ本委員會及其ノ事業ヲ餘リ重要視シ居ラサルモ日

本側カ本委員會及棉麥借款ヲ極端ニ重要視シ居ル如ク觀取セラル爲一部ノ連中カ之ヲ日本「嫌ガラセ」ノ道具ニ使用シ居ル傾向アリ

支、北平、天津、滿洲へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

368 昭和9年2月8日 在中國有吉公使より  
廣田外務大臣宛(電報)

邦商の借款米棉不買に關し非借款棉花の邦商  
買入れ方米國クレイトン社より要請について

上 海 2月8日後發  
本 省 2月8日後發

第八一號

依リテ館員ヨリ日本政府ハ商人ニ對シ借款棉花ヲ購入スヘカラス等命令セルコトナキモ商人ハ借款棉花ノ手取金力支那政府ニヨリ日本ニ對シ惡用サルルコトヲ慮り自發的ニ又與論ノ非難ヲ惧レ買ハサルモノト察セラルルカ貴意ハ諒承セルニ付「クレイトン」ヨリ書面保證アラハ右傳達方考慮スヘク尤如何ニBL上ニ借款棉花ナル事實現ハルルトモ「ク」カ普通棉花ト共ニ之ヲ取扱フニ於テハ外部ヨリ識別困難ナルヘク從テ若シ「ク」カ全然借款棉花ヲ扱ハサルコトヲ保證シ得レハ一層有效ナルヘシト思ハルル旨ヲ答へ序ヲ以テ大臣宛電第六二號ノ事情ヲモ取り交セ借款棉花取扱ヲ「デイスカレツヂ」シ置キタル處先方モ「ク」ハ棉花商トシテ競争ノ立場ニアル(關係上)本件借款ニ反対シタルモノナリ等話シ居タル趣ナリ

當方トシテハ大臣宛電第四五號後段ニモ申進シタル通り

實際の方面ニ働き掛クルコト本件目的達成上有效ト認メ居ル處或ハ借款棉(花)ニ非サルコト明カナルモノハ價格次第ニテ日本側ニ買入レシムルコトハ事態ヲ我方ニ有利ニ轉回セシムルコトナルヤモ知レヌ何レニスルモノ本問題ニ付テハ先方ニ對シ應酬ノ都合モアルニ付本電冒頭ノ如キ事情ノ

米發本官宛電報<sup>(1)</sup>

第一號

「ヒューストン」ニ於ケル最大ノ棉花商タルAnderson Claytonノ當地代表者ハ六日人ヲ當館ニ派シ「クレイトン」ヨリ受領セル電報ヲ提示シタルカ右ハ同社上海支店ノ最大顧客タル日本棉花商カ政府ノ要求ニ依リR、F、Cト全然關係ナキコト證明セラレサル限り棉花ヲ買ハサル處總テノ借款棉花ハ支那政府代理人ヲ荷送人トシR、F、Cニ對シ派出サレタルB、Lニ依リ船積セラレ右B、Lハ支那ニ於

テ棉花引渡後支R、F、C代表者ニ依リ裏書サレ始メテ「ネゴーシヤブル」トナル譯ニ付(同人ハ右ノ關係ヲ確認セルR、F、C發「クレイトン」宛公文原文ヲモ提示セリ)當館ニ對シ右借款棉花ハB、L免狀ニ明ラカニ其ノ事實現ハルル次第ヲ說明シ當館ヨリ在上海日本公使館ニ對シ右ノ事情打電方依頼ス可ク又必要アラハ「クレイトン」ハ當館ニ對シ日本商人ニハ決シテ借款ニ關係アル綿花ヲ賣渡ササル可キ旨書面ニテ保障スルモ差支ナキ旨記載シアリタリ尙其ノ際「ク」ハ毎年二百萬俵見當ヲ上海ニテ賣捌キ居タルモ棉花借款成立以來全然賣レス困リ居ル次第ヲ述ヘタリ

369 昭和9年2月9日 在中國有吉公使より  
廣田外務大臣宛(電報)

非借款棉花の邦商買入れ方策考究方意見具申  
貴電第一號ニ關シ

一、借款棉ニ關シテハ當地邦人紡績及棉花商ニ對シ購入ヲ差控フル様内密當方ヨリ指示セル次第モアリ當業者モ輿論ノ非難ヲ恐レ買控ヘ居ル實狀ナル處借款棉ハ賣行不振ノ爲最近一俵ニ付銀四弗位安値ニテ夫ト無ク邦商ニ「オツフアー」シ來リ居リ若シ今後續々輸入サレ支那人紡績カ盛ニ之ヲ買入ルカ如キコトアラハ(現在ハ餘り買ヒ居

(欄外記入)

第一號 第八三號  
本使發米宛電報

貴電第一號ニ關シ

一、借款棉ニ關シテハ當地邦人紡績及棉花商ニ對シ購入ヲ差控フル様内密當方ヨリ指示セル次第モアリ當業者モ輿論ノ非難ヲ恐レ買控ヘ居ル實狀ナル處借款棉ハ賣行不振ノ爲最近一俵ニ付銀四弗位安値ニテ夫ト無ク邦商ニ「オツフアー」シ來リ居リ若シ今後續々輸入サレ支那人紡績カ盛ニ之ヲ買入ルカ如キコトアラハ(現在ハ餘り買ヒ居

ラス邦人當業者ハ相當打撃ヲ受クル次第ニテ内々憂慮シ居ルモ目下ノ處輸入量モ少量ニテ未タ驕立ツル程ノコトモ無カルヘシトノ趣旨ニテ依然買控方針ヲ持続スル様說示シ居ル次第ナリ(棉花商ハ買氣旺盛ナルモ紡績筋ハ比較的冷靜ナリ)

三、支那政府ハ當初借款棉ヲ當地三大外人輸入商(「クレイトン」社モ含ム)ノ組織スル「シンジケート」ニ引受ケシメタルカ其ノ後支那商中國棉貿易公司カ割込ミ外人「シンジケート」ト對立スルニ至リ外人側ハ賣行不振モ手傳ヒ困難ヲ感シ居レル處「ク」社以外ハ印棉ヲ取扱ヒ居ル關係上左シタル事無キモ「ク」社ハ米棉ヲ專門トシ而モ「シンジケート」ニ加入セル爲邦人當業者ハ世間ノ疑惑ヲ避ケル爲必要上同社トノ一般取引ヲ中止スルニ至リ當地商店ノ打撃ハ甚大ニシテ窮状切抜ノ爲本社ニ打電シR、F、Cヨリ冒頭貴電ノ如キ借款棉ノ識別方法ニ關スル言質ヲ取付ケ之ヲ持廻リ毎日ノ如ク邦商ノ買入ヲ勧誘シ居ル趣ナリ

三、一方當地邦人棉花商モ米國ノ農業救濟進行ニ伴ヒ地元農民ノ賣惜傾向ヲ助長シ品種ニ依リテハ地元ノ買付不可能

(欄外記入)

今一息ニアラズヤ

370

昭和9年2月10日  
廣田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)クレイトン社の困窮を利用し米中棉麥借款の  
解消に努力方訓令

第二八號(至急、極秘)

米發貴公使宛第一號ニ關シ

一、「アンダーソン、クレイトン」ノ在米大使館側ニ對スル申出ハ貴地ニ於ケル「アンダーソン、クレイトン」側ノ東棉支店ニ對スル申出(貴信機密公第三六號)ト同趣旨ノモナルカ右等申出ノ方法ハ一應借款棉ト普通棉ヲ區別シ得ルヤニモ認メラルモ結局ハ「アンダーソン、クレイトン」ノ善意如何ニ係ル問題ニシテ右方法ヲ以テスルモゴマカサントスレハ其ノ餘地アルヘキヤニ認メラルル(此ノ點商務官ノ意見ヲモ徵シ貴見回電アリ度シ)現ニ東棉本社カスノ如キ方法ニ依リ「アンダーソン、クレート

ナルモノアリ其ノ品種ニ限り外商(「ク」社等)ヨリ買付クルコトト致度シトテ了解ヲ求メ居レル處(買付條件ハcash against documents in New York トシ陸揚地ハ買付人ノ自由トシ借款棉ト區別ス)東棉本社ノ如キハ假令普通棉ト雖「シンジケート」ニ加入シ居ル「ク」社ヨリノ買入ハ疑惑ヲ招クニ付差控フル様當地支店ニ命令アリタル趣ニテ右ニ對シ支店側ヨリハ脊ニ腹ハ代ヘラレストテ或品種ヲ限り前記ノ條件ニテ「ク」社ヨリ買付度意嚮ヲ固執シタルモ本社ヨリ再三前記命令ヲ繰返シ來レルニ依リ事態ノ變化無キ限り商談ヲ見送ル外無キ實狀ナル由テ貴電ノ如ク「ク」社ヲシテ借款棉ヲ取扱ハサル様保障セシムル事ヲ得ハ結構ナルモ右不可能ノ場合ニハ何等カノ方法ニ依リ實際ニ於テ邦商申出ノ如キ條件ニ依ル取引力善意ニ行ハレ居ル事ヲ確認シ得ルニ於テハ當方面事情ノ發展如何ニ依リテハ之ニ反對スル必要無シト考ヘ居ル次第ナルニ付右ノ御含ニテ此ノ上トモ「ク」社ノ指導方御配慮ヲ請フ

大臣、北平、南京へ轉電セリ

米、北平、南京へ轉電セリ

371 昭和9年2月23日 在米國斎藤外務大臣より  
広田外務大臣宛(電報)

**小麦クレジット満期に鑑み棉麦借款改訂の成行**

**行き探査方訓令**

別電 二月二十三日発広田外務大臣より在米國斎藤

大使宛第三八号

右改訂に関する宋子文の新聞記者への談話および中國紙報道振りについて

本省 2月23日後6時30分発

第三七號(極秘)

往電第二八號ニ關シ

小麥「クレディット」満期モ近ツキ居リ支那側等ニテハ何等カノ形ニテ契約ヲ改訂スヘク畫策シ居ルコト、存セラル處(「ポートランド」)發本大臣宛電報第六號、往電第二二號及別電第三八號參照)貴電第六二號其ノ後ノ成行探査方御配慮相煩度

別電ト共ニ英、佛、紐育、「ニューオリンズ」「シアトル」「ポートランド」へ暗送アリ度シ

(別電)

本省 2月23日後6時30分発

第三八號

二月一日宋子文ハ新聞記者ニ對シ棉麥ノ賣行面白カラサルニ付其ノ購入量ヲ減スルカ又ハ借款ヲ以テ他ノ品物ヲ購入スルカニ付交渉セサルヲ得サル狀態トナリ現ニ駐米公使館書記官魏文斌ニ於テ交渉中ナル旨ヲ語リタル由又七日ノ上海漢字紙ハ原契約ニ依レハ本年六月三十日迄ニ借款米棉全部運送ヲ終ルヘキコトトナリ居ルモ期限通り賣捌クコト困難ニ付半ヶ年又ハ若干月期限延長方米國政府ニ要請シ已ニ米國側ノ同意ヲ得テ契約修正協議中ナル旨ヲ報セリ

372 昭和9年3月1日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

**棉麦借款減額に関する唐有壬の内話について**

第一六一號(極秘)

南京 3月1日後発

本省 3月1日後発

本一日唐有壬ハ本官ニ對シ棉麥借款ハ不人氣ナル爲何トカ

改訂方考慮中ナリシカ今回五千萬元ヲ一千萬元ニ改メ麥ノ一千萬元ハ其儘トシ棉ノ四千萬元ヲ一千萬元ニ減スル事トセル旨極秘トシテ内話セリ本件發表ハ絶對ニ見合サレ度シ支、北平、滿洲轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

373 昭和9年3月28日 在米國斎藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

**棉麦借款減額後の対応に関するR.F.C.総裁発表について**

表について

付記 三月二十九日付、作成局課不明

〔棉麦借款減額ニ關スル件〕

ワシントン 3月28日後発

本省 3月29日前着

第二〇〇號

往電第六二號ニ關シ

「ジョーンズ」ハ二十六日新聞ニ對シ棉麦借款ハ支那政府ト協議ノ結果二千萬弗ニ減額シタルカ右ノ内千萬弗ハ棉花ニテ本年七月迄ニ船積ヲ完了スルコトトシ殘リ千萬弗中六

(付記)

棉麦借款減額ニ關スル件(昭和九、三、二九)

(一)客年五月末成立セル米國復興金融會社ノ對支棉麦借款五千萬弗ハ今般二千萬弗ニ減額セラレタリ尙同時ニ「クレディット」使用期限ノ延長ヲ見タリ即チ

原契約金額(及信用使用期限) 新契約金額(同)

棉花 四千萬弗(七月末日)	一千萬弗(七月末日)
小麥 六百萬弗(二月末日)	六百萬弗(七月末日)
麥粉 四百萬弗(二月末日)	四百萬弗(十二月末日)

注意「シアトル」來電第一七號中棉花三(百)萬弗トアル  
ハ一千萬弗ノ誤ト認メラル

要スルニ棉花「クレディット」ハ著シク減額セラレ(期限  
ノ延長ヲ見ス)小麥及麥粉「クレディット」ハ金額ハ變更  
セサルモ使用期限延長セラレタリ

(二)棉花ハ客年九月頃ヨリ又小麥ハ客年十一月頃ヨリ相當量  
ノ對支輸出アリ換言スレハ原契約ニ依ル「クレディット」  
ノ中相當額ハ既ニ使用セラレ居レリ今次變更セラレタル  
契約額二千萬弗ハ今後使用シ得ル「クレディット」ノ額  
ニハ非スシテ二千萬弗ヨリ既ニ使用セル「クレディット」  
ノ額ヲ差引キタル殘額カ今後使用シ得ヘキ「クレディッ  
ト」ナリ(前掲「シアトル」來電後段参照)

既ニ使用済(推定) 新 契 約 残 額  
棉花 四百五十萬弗 一千萬弗 五百五十萬弗  
小麥 五百六十萬弗 六百萬弗 四十萬弗  
麥粉 極 少 額 四百萬弗 約四百萬弗  
棉花ハ一月二十日R.F.C.發表ニ依レハ同日迄ニ三百九  
萬弗(七、八萬俵ニ當ル)購入セラレタル由ニ付其ノ後多  
少ノ購入アリタルモノト見テ四百五十萬弗ト推定セリ但

右ハ購入セラレタル金額ニシテ購入セラレタル儘「テキ  
ساس」地方ニ滯貨トナリ居ルモノニ、四萬俵以上アリ支  
那ニ輸入セラレタル棉花ハ三、四萬俵ナルヘシ(五萬俵ト  
報セル支那紙アリ)小麥ハ三月初迄ニ七百十五萬「ブツシ  
エル」約四百萬弗ノ對支輸出アリタル由(在「ポートラン  
ド」農務長官代理人内話)ナルカ前顯「シアトル」來電ニ  
依レハ小麥「クレディット」殘額ハ三、四十萬弗ニ過キ  
ストノコトナルヲ以テ既ニ輸出セラレタル額ハ五百五、  
六十萬弗ナルヘシ

麥粉ハ殆ト輸出セラレ居ラス但前記三月初迄ノ七百十五  
萬「ブツシエル」ノ中ニハ多少ノ麥粉ヲ含ミ居ル由

### (三)之ヲ要スルニ

(1)借款棉花ハ在華邦人紡績力不買ノ態度ヲ持セル爲今後  
モ多額ノ對支輸出ハ困難ナルヘシトノ見極メヲ付ケタ  
ル結果多額ノ減額ヲ爲シタル次第ニシテ棉花ニ關スル  
限り棉麥借款ハ少クトモ政治的ニハ失敗ヲ立證セラレ  
タルモノト言フヘシ今後滯貨及未購入額ヲ全部輸入シ  
得タリトスルモ支那政府ハ七百萬米弗(二千萬元見當)  
ヲ入手シ得ルニ過キス之トテ容易ナラサルヘシ蓋シ既

ニ四百五十萬弗(七、八萬俵)ヲ購入シタルトハ言ヘ其  
ノ半額近クハ「テキサス」方面ニ滯貨トナリ居ル有様  
ニ付右滯貨ヲ輸入スルニ三、四ヶ月ヲ要スヘク殘額ノ  
輸入モ相當ノ困難アルヘシ問題ハ期限カ延長セラレタ  
リヤ否ヤナルカ(此ノ點確ムル要アリ)期限カ原契約通  
七月末迄ナルニ於テハ在華紡サヘ不買ノ態度ヲ持続セ  
ハ七月末ニ更ニ減額又ハ期限延長ヲ要スヘク又若シ期  
限延長セラレ居ルモノナルニ於テハ極メテ徐々輸入セ  
ラルルコトトナルニ付在華紡ニ於テ不買ノ態度ヲ持ス  
ルコト困難ニ非サルヘシ

(2)小麥ニ關シテハ「クレディット」殆ト全額ヲ既ニ使用

シ居リ期限七月末迄ニ殘額四、五十萬弗ノ輸出ヲ了ス

ルコト疑ナシ原契約ニ依レハ二月末迄ニ輸出スヘカリ

シヲ三月ニ入りテ相當巨額ヲ輸出シタルニ付今次ノ持ス

限延長ハ主トシテ三月中ノ輸出ヲ追認スルカ爲ナルヘ  
シ

(3)麥粉ニ關シテハ支那製粉業者カ麥粉ノ形ニテ輸入セラ

ルルヲ好マサル傾向アルノミナラス市況ノ關係上今迄

ノ所殆ト輸入セラレス(原契約ニ依レハ毎五ヶ月間ニ

374

昭和9年4月10日 在南京須磨總領事より

広田外務大臣宛

### 全体会議決議の概要について

普通第二五四號

昭和九年四月十日

在京南

總領事 須磨 彌吉郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

全國經濟委員會全体委員會議開催ノ件

全國經濟委員會カ三月二十六日當地ニ第一次全體委員會議  
ヲ舉行シ棉麥借款使途ノ具体案其他ヲ決議シタル件ニ付テ  
ハ不敢電報ヲ以テ及報告置キタル處同會議ノ概要並ニ借

款使途ノ具体案内容等新聞所報ノモノ御参考迄ニ左記ノ通り報告ス

## 一、當日ノ出席委員

常務委員 汪兆銘 宋子文 孔祥熙 (蔣介石 孫科ハ 不參)

委員 朱家驥 陳公博 王世杰 彭學沛 以下十九人

列席參加 四川 湖南 山東 廣東 河北 貴州 雲南 甘肅 陝西 各省政府代表

其他 水利處 衛生實驗處 農業處ノ各處長 棉業統制委員會 蠶絲改良會ノ代表委員 並「モネー」、「ライヒマン」其他經濟委員會

外國人顧問

## 二、借款使途ノ分配

改訂棉麥借款契約ハ麥及麥粉ノ部分ヲ其儘トシ棉花ノ部分ヲ一千萬米弗三減額シ結局計二千萬米弗トナリタルカ現在ノ換算ニ依レハ約五千萬元トナルヘキモ貨物到着後三ヶ月以内ニ返還スヘキ元金及運賃其他ヲ控除スレハ手取ハ四千萬元トナル勘定ナリ本借款成立當時ヨリ今日迄

各地ヨリ借款ヲ曰當トシテ建設事業ノ補助ヲ願ヒ出テ居ル額ハ總計十億三千餘萬元ニ達シ借款額ノ約二十五倍ニ達スルヲ以テ大多數ハ取上ケラレサル有様ナリ

ル額ハ總計十億三千餘萬元ニ達シ借款額ノ約二十五倍ニ

當初常務委員會ニテハ原則案トシテ

一、或ル地域ヲ特定シ特殊事業ヲ斟酌ス

二、小額ニテ處理出來サルモノハ之ヲ實施セス

ノ三項ヲ規定シ借款使途ヲ按配スルコト、シ又昨年中央

政治會議ハ百分ノ四十ヲ以テ幣制改革及金融整理(整理

費トシテ一千四百萬元ヲ中央銀行ニ交付ス)ニ使用スヘ

キコトヲ決議シ(當時發表セラレス)其餘ノ二千四百萬元

中ヨリ六百萬元ヲ民間航空事業發展費二百八十萬元ヲ江

西省政治費二百萬元ヲ同省建設費ニ支出スヘキコトヲモ

決定セルカ此等ノ外昨年十月經濟委員會成立シテヨリ十

二月ニ至ル三ヶ月間ニ同會事業費(大部分ハ道路築造費)

トシテ既ニ二十萬元ヲ支出シタル爲本年度殘額ハ僅カニ一千五百萬元トナレリ

本會議ニ於テ決定セラレタル右殘額ノ割當額ハ

七省聯絡公路築造繼續費

六五〇萬元

衛生事業繼續費 五〇萬元

江西省建設事業費 一九〇萬元

西北建設事業費 二五〇萬元

棉麥統制費 一〇〇萬元

養蠶改良費 七五萬元

茶業改良費 六萬四〇〇〇元

自動車飛行機燃料研究費 一〇萬元

經濟土地調查費 二〇萬元

ノ如クニシテ農業、水利費ハ本項内ニ含マレス重大ナル

水利事業中黃河水利ノ如キハ約一千四百萬元ヲ要スル見

込ニテ實行困難ノ爲之ヲ除外シ居リ唯棉業蠶桑絲業茶業

及西北建設費中ニハ牧畜振興費ノ四十萬元農村合作事業

費四十萬元ヲ包含セシメ江西省建設費中ニ於テモ五十萬

元ノ農村合作實施費ヲ指定シ居レリ以上ノ外各委員各代

表ヨリ提出ノ議案中決議通過シタル主ナルモノハ

一、金本位採用ニ至ルマテノ過度辨法案(彭學沛提案)

財政部幣制委員ニ廻付研究セシム

二、經濟委員會、教育部會同ノ上全國學術工作諮詢處ヲ組

織セシムル案 常務委員會ヲシテ辦理セシム

三、米價引上ケ農村破產救濟案 行政院ヲシテ執行セシム

四、河北省農村經濟救濟案 常務委員會ニ廻付辦理セシム

五、棉麥借款ニヨル膠濟鐵道回收案(山東代表提案) 行

政院及鐵道部ヲシテ審議辦理セシム(電報々告濟)

六、石炭統制及河北省礦業整頓案 行政院ニ廻付審理セ

シム

七、河北省公路修築計劃案 公路處ニ廻付ス

八、雲南省礦產調查技術員派遣案 常務委員會ヲシテ辦

理セシム

九、燐寸統制實施案 常務委員會ノ辦理ニ移ス

ノ九項ナリ

三、借款經過 宋子文ハ同會議ニ提出セル棉麥借款經過報告書中ニ全國支那人經營紡績工場カ年額消費スル棉花ヲ六十萬俵ト見積リ之ヲ標準トシテ棉ノ部分四千萬米弗借款ヲ成立シ(現在ノ市價ニヨレハ六十餘萬俵ヲ購入シ得ル見込)麥及麥粉ノ部分ハ僅カニ一千萬米弗借款ナルカ右

ハ歷年ノ輸入統計ニ比較スルモ尙及ハサルモノナルコトヲ述ヘ居リ尙原借款ノ改訂原因及賣捌状態及改訂借款契約後ニ於ケル收入状態トシテ中央銀行棉麥事務處經理席徳懋等ノ報告ヲ記載シ居レルカ右ニ據レハ

(一)麥六百萬米弗ニ付テハ逐次賣盡シ得ヘキモ麥粉ハ市價ノ關係ニテ尙難色アリ(二)棉花ニ付テハ種々ノ關係ニ因ツテ漸ク一千萬米弗ヲ消化シ得ル見込トナリタル爲原ノ契約ヲ改訂シテ(一)麥ノ六百萬米弗及麥粉ノ四百萬米弗ハ其儘トシ唯期限延長スルコトトナリ前者ハ本年三月一日ヨリ七月三十一日迄後者ハ本年三月一日ヨリ十二月三十一日迄トセリ(但シ麥粉ハR、F、C、ニ於テ豫告ニヨル取消權ヲ有ス)(二)棉花ハ四千萬米弗ヨリ一千萬米弗ニ減額シタルカ右減額高三千萬米弗ニテ別ニ麥或ハ建設材料購入方ヲR、F、C、ニ申入レタルモ遂ニ容ラレサリシ由ニテ右改訂ニヨリ本年ノ實收見積ハ棉花二千二百五十萬元、麥一千六百萬元、麥粉五百萬元計四千三百五十萬元トナル見込ナル由

次ニ改訂後ニ於ケル現在ノ收支状況及將來ノ收入見込ヲ見ルニ

375 昭和9年4月16日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

**借款棉賣捌きシンジケートからのクレイトン  
社脱退について**

上 海 4月16日後発  
本 省 4月16日後着

<sup>(1)</sup> 第一八四號 一、去ル五日「クレイトン」社當地支店長(「エイゼント」)T.

O. Schmid 堀内ラ來訪シ借款棉ハ七月一杯ニテ満期ト

ナリ其ノ分量モ少ナケレハ日本商人カ之ヲ買入ル様障害除去方公使館ノ助力ヲ得ラレマシキヤト訊ネタルニ付

堀内ヨリ日本商人力借款棉ヲ買ハサルハ愛國心又ハ自重心ニ基キ何等政府ノ意図ト關係無ク當館トシテハ商人力業務上ノ困難ヲ除ク爲又ハ支那側ノ依頼ニテ之ト協力スル爲當方ニ願出ツル場合ノ外右障害除去ニ盡力スル必要無シトテ當方ノ立場ヲ詳細説明(「シユ」ノ質問ニ依リ冒

頭電報證據書類ノ發表ノミニ依リ「ク」社ヨリノ普通棉ノ買入ニ對シ國論ノ攻撃ヲ緩和シ得ル見込渺シトノ堀内

一、二千萬米弗カ完全ニ使用濟トシテ計算シ第一年ノ返還額ヲ差引キ總收入ハ四千八百萬元トナリ

二、現在迄ノ棉麥賣上收入額及未收入額ハ(イ)棉花ノ七百五十萬元(ロ)麥、麥粉千九百萬元 計二千六百五十萬

元ニシテ運賃及諸掛三百萬元ヲ控除シ純剩餘二千三百五十萬元トナリ

三、未到着棉花、麥、麥粉ノ收入豫算ハ(イ)既ニ賣約濟ノ棉花五萬俵(七百五十萬元)ヲ差引キ剩餘一千五百萬元(ロ)麥千六百萬元(六百萬米弗ノ購入量ハ三十二萬頓一擔四元トシテ頓當リ六十元トナリ)收入約千九百萬元之ヨリ運賃三百萬元ヲ差引キ實收千六百萬元(ハ)麥粉ハ現在迄ノトコロ僅カニ三百萬頓ヲ賣出シタルノミナレハ剩餘ハ五百萬元乃至一千萬元ヲ得ヘク結局年末迄ノ實收豫算ハ棉花二千二百五十萬元、麥千六百萬元、麥粉五百萬乃至一千萬元ニシテ合計四千三百五十萬元乃至四千八百五十萬元ノ見込ナル由

本信寫送付先 公使 北平 上海 天津 青島 濟南 漢口 福州

廣東

ノ私見ヲモ説明セル趣)セル處「シユ」ハ右ニテ事態頗ル明瞭トナリタルカ此ノ上ハ日本商人トノ從來ノ取引ヲ回復スルニハ「ク」社ニ於テ借款棉「エイゼント」ヨリ脱退スルヨリ外途無シト考フルカ

右ハ支那商人ノ反感ヲ招キ合衆國政府トノ協力ヲ拒ム事ナル爲相當困難ナルモ同社トシテハ二者何レカラ選ハサルヘカラスト述ヘ居タル趣ナリ(其節「シユ」ハ華府發本使宛電報第一號米大使館側トノ話合ニモ言及シ居タリ)

然ルニ「シユ」ハ本十六日附書翰ヲ以テ「ク」社ニ於テハ China American Cotton Syndicate ニ脱退ノ通告ヲ爲シ其受諾ヲ得タル旨當地「ア」社中棉公司及「フオ」社ニ對シ通知シ(八月二十八日附契約第八項ニ依ル趣ヲ以テ)タル趣ニテ右通知書ノ寫ヲ日本商人側ニ提示シ來リタルカ(寫郵送ス)日本商人側特ニ棉花商ニ於テハ右脱退通知カ果シテ事實ナリヤ並ニ事實トスルモ今直ニ「ク」社ト普通米棉ノ取引ヲ爲ス事カ何等ノ疑惑ヲ招カサルヤ否ヤニ付更ニ攻撃ヲ要スルモノトシテ目下各方面ニ付取調中ノ趣ナリ右不取敢

米、北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

376

昭和9年4月19日

広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

クレイトン社のシンジケートからの脱退に拘らす我が方借款米棉不買継続の方針當業者に

徹底方訓令

本省 4月19日後10時20分発

第一二七號(極秘)

貴電第二八四號ニ關シ

(一)在米大使發本大臣宛電報第六〇號及第二〇〇號ヨリ察スルニ三月末迄ニ使用セラレタル棉花「クレディット」ハ四百五十萬弗前後ニシテ同「クレディット」總額ハ一千萬弗ニ減額セラレタリト雖モ猶七月末迄ニ五百五十萬弗(十一萬俵見當)前後ノ棉花ヲ買付積出サルヘカラス且前記四百五十萬弗(九萬俵位ナルヘシ)ノ中四萬俵近クハ未タ「ヒューストン」等ニ滯貨トナリ居ルモノノ如シ(二ユーロリンス)發本大臣宛第六、八、一〇及一七號參照)從テ結局七月末迄ニ合計十五萬俵見當ノ積出ヲ要スルモ

ノト思ハルル處支那紡績ノ消費量ヨリスレハ右ハ殆ト不可能ナルヘキニ付何トカ辦法ヲ講シテ邦人紡績ニ賣却スル外ナク今次「ク」社申出ノ如キモ其ノ一策ニ非スヤト思ハル

(二)冒頭貴電「ノ「ク」社申出ハ同社ノ「シンジケート」ヨリ脱退セルコトカ事實ナルヤニ付既ニ疑問アリ假令脱退カ事實ナリトスルモ之ヲ以テ直チニ同社カ借款棉ヲ取扱ハストノ保證トハナラサルヘク(同社カ既ニ輸入セル借款棉ニシテ處分<sup>(未)</sup>了ノモノヲ有スルニ於テハ之ヲ處分シ得ヘキハ勿論將來ニ於テモ支那政府トノ合意サヘアラハ「シンジケート」外ニアリテ借款棉ヲ取扱ヒ得ルニ非スヤト思ハル)加之前記(一)ノ事情ヨリ疑惑ハ益々深メラルル次第付引續キ貴電一ノ趣旨ニ依リ「ク」社ニ應酬セラルルト共ニ當業者ヲシテ引續キ借款棉ノ疑アル米棉ニ對シテハ不買ノ態度ヲ持續セシムルコト望マシキ次第ナリ右可然御配慮相成度

米、北平、南京へ轉電セリ

377

昭和9年4月24日

在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

斎藤駐米大使の棉麦借款軍事利用との談話に  
対し孔祥熙反駁について

上 海 4月24日後発

本 省 4月24日後着

棉麦借款賣上高カ軍事的及政治的目的ニ使用セラレ居ル事實判明云々トノ斎藤駐米大使ノU、Pニ對スル「インター

第三四〇號

第一〇一號

在支公使發本大臣宛電報第三四〇號ニ關シ

棉麥借款ノ今日迄ノ使途ハ幣制改革及金融整理費(中央銀

行ニ交付)千四百萬元、民間航空事業開發費百八十萬元、江○西省政治費百八十萬元、同省建設費百萬元、道路建設二十萬元トノ發表モアリ(郵報スミ)金額等區々ニシテ真相判明セサルカ何レモ金融整理ト言フカ如キ漠然タル文句ヲ用ヒテ過古ノ政費流用ノ穴ウメニ用ヒ又掃共其ノ他ノ軍費、航空事業等ニ使用シ居ルハ事實ト認メラル將又將來ノ使途モ一應ノ名目ヲ定メタルノミナレハ之ヲ内密流用スヘキハ支那從來ノ遣方ニ徵シ殆ト疑ナシ右爲念

居レリ

紐育ニ暗送アリ度

四 中国をめぐる列国との関係

支へ暗送セリ

379 昭和9年5月1日

在ポートランド中村(豊一)領事より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽情報部長非公式談話と棉麦借款との関係  
についての対応振りにつき請訓

ポートランド 5月1日後発  
本省 5月2日前着

米宛貴電第一一〇號ニ關シ  
第二四號

當地方小麥關係者ハ十七日ノ非公式聲明中對支借款ニ言及  
セラレ居ル點ニ多大ノ關心ヲ有シ本官トノ會談ノ際屢右聲  
明ノ眞相ヲ承知致度希望ヲ洩ラシ居ル向アル處改メテ御發  
表無キ模様ナルニ付テハ小麥借款カ當地方一般ニ重大ナル  
關係アリ從テ對日輿論ニ影響スル所鮮カラサルニ鑑ミ關係  
業者トノ應接ノ際ノ心得迄ニ我方ノ御方針ニ關シ御差支無  
キ程度ニ於テ何分ノ儀御垂示相煩度シ  
米ヘ轉電シ桑港、「シャトル」ヘ暗送セリ

電信料(經常費)五〇〇弗電送アリ度シ

380 昭和9年5月3日 広田外務大臣より  
在ポートランド中村領事宛(電報)

天羽非公式談話と棉麦借款との関係について  
の対応振りにつき回訓

本省 5月3日後9時30分発

第一〇號

貴電第二四號ニ關シ

(一) 棉麦借款ハ其ノ收入即チ輸入棉麦ノ賣上代金ノ使途ニ付  
全然制限ヲ設ケス從テ支那政府ハ之ニ依リ自由ニ軍費等  
ニ流用シ得ヘキ「フリー、マネー」ヲ入手スル譯ニシテ  
(現ニ支那側カ前記賣上代金ヲ軍費等ニ流用シ居ルコト  
殆ト疑ナシ)即チ右ハ支那ノ内亂ヲ助長スル結果トナル  
次第ナリ加之支那側ハ同借款ヲ以テ支那ノ抗日策ヲ米國  
カ援助スル爲ナルカ如ク宣傳シテ排日氣勢ヲ擧ケントセ  
リ  
依テ我方トシテハ米國々務省其ノ他ノ向ニ對シ客年來再  
三「米國側ノ動機カ農產物處分ニ在ルコトハ疑ハサルモ  
本借款ハ結果ニ於テ前記ノ如ク支那側ニ惡用セラレ居リ  
日本人ニ如何ニモ米國カ日本ノ利益ニ反スル策動ヲ爲シ

居ルヤノ感ヲ懷カシメ米國ノ眞意ヲ諒解スル者ノ説明モ  
其ノ効ナキ有様ナリ」トノ趣旨ヲ説明シ反省ヲ求メ來リ  
先方モ相當諒解セル模様ナリ(小麥業者モ客年未以來小

麥ノ對支輸出ノ促進セラレタルハ借款ノ結果ニ非スシテ  
補助金ノ結果ナルコトハ漸次諒解シ來リタルコトト存  
ス)

(二) 尤モ今次ノ所謂聲明ハ特ニ棉麦借款ヲ目差セルニ非ルノ  
ミナラス右聲明カ意外ノ反響アリタルニモ顧ミ此ノ際前  
記ノ次第ヲ聲明問題ニ結ヒ付ケテ説明セラルコトハ避ケ  
ラレ度キモ強ヒテ必要ナルニ於テハ日本トシテハ米國ノ  
純商業的取引ニ反對スルモノニ非スト云フ位ノコトヲ説  
明スルニ止メラレ度シ  
貴電ノ通轉報アリ度シ

381 昭和9年9月15日  
在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

棉麦借款の武器購入流用説に関する在中国米  
国参事官の内話について

(欄外記入)  
十五日當地路透ハ十四日華府電報トシテ支那カ棉麦借款中  
一千萬弗ヲ武器購入ノ借款化セリトノ米國Armament  
Inquiry Commission議長「セネターナイ」ノ「エビデンス」  
ナルモノヲ報道シ居レルカ本官十五日「ガス」ト會見ノ際  
「ガ」ノ内話要領左ノ通  
棉麦借款ハ米國ニ於ケル超政府タルRFCノ失策ニシテ外  
交的ニモ失敗ナリト言フヘク一千萬弗ヲ以テ武器購入ニ充  
ツヘシトノ風説ニシテ眞ナリトセハ愈各國ノ誤解ヲ招クコ  
トトナルヘシ「セネターナイ」ノ「エビデンス」ナルモノ  
ハ寧ロ本借款ニ關シ日本側ノ有スル情報ヲ打消サン爲カト  
モ思考セラルルモ或ハ飛行機廿臺ノ對支賣込成立セリ等ノ  
噂モアリ相當根據ヲ有シ居ルヤモ知レス但シ此等ハ何レモ  
營利ノ目的ヨリ出ツルモノナリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ  
營(利)會社ノ支那進出ハ自由ナルモ友(邦)政府ノ疑惑ヲ感  
クカ如キ程度ノ活動ヲ政府ニ於テ監督セサルハ面白カラス  
ト述ヘタル處「ガ」ハ私見ナルモ國務省カ取締ノ必要ヲ感

スルノ時期ハ遠カラサルヘシト答ヘ居タリ  
支、北平へ轉電セリ

(欄外記入)

棉麥借款ノ如キモノノ不都合宣傳可然

382 昭和9年9月17日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

張公權より船津理事に対する借款米棉処分方

協力要請への対応につき請訓

上海 9月17日後発  
本省 9月17日後着

第七五九號

一、借款米棉ニ關シテハ我方當業者側ニ於テ相當ノ不便ヲ凌  
キ長ク我方針ヲ体シ來リタル結果(八月八日附本使宛商  
務官公信機密第一五號末段參照)支那側ニ於テモ官民共  
ニ我方ノ援助無クシテハ外國トノ經濟合作ハ實效ヲ擧ケ  
難キ所以ヲ痛感シ來リ居ルカ如ク我方ノ主タル目的ハ既  
ニ遂ケラレタルヤニ存セラル處他方宋子文孔祥熙其ノ  
(欄外記入)

三、本件ニ付テハ前記一ノ事情ヲモ考慮ニ入レ(本件ニ依り  
宋子文邊リヲ引付クル事カ餘リ問題トナラサル事ニ付テ  
ナリ)

ハ往電第七一六號四末段參照)前記張ノ申出ヲ受諾シテ  
借款棉處分ノ爲中綿公司ト本邦當業者トノ協(脱)ヲ作ラ  
シメ之ニ一面兩國經濟提携ノ途ヲ開キ他面同方面ノ空氣  
ノ好轉ヲ增進スル事機宜ノ處置ナリト思考セラル處右  
ノ趣旨ニテ張ト話台ヲ進メシメ差支無キヤ至急御回訓ヲ  
請フ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

(欄外記入)

実業家ノ云フ所ハ當ニナラズ事情精査ヲ要ス

383 昭和9年9月21日 在米国藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

棉麥借款の武器購入流用の確証を米国上院武  
器調査委員会が有するとの報道につき國務省

極東部長と会談について

ワシントン 9月21日後発

本省 9月22日前着

第四一二三號

他支那側當局ノ本件ニ對スル態度ハ將來トテ累次報告ノ  
範圍ヲ出テサルヘク之カ處分ニ付表面我方ノ援助ヲ懇請  
スルカ如キ事ハ差當リ豫期シ難キヤニ存セラル

二、然ルニ八月下旬張公權ハ避暑ノ爲北支ニ出發前船津ニ對  
シ自分經營ノ中綿公司ノ業態思ハシカラス借款棉ノ處分  
ヲ引受ケテ回復シ度シト考ヘ居ル處右ハ日本側ノ協力ニ  
依リ始メテ有效ナル次第ナルカ之カ爲利益均分ノ趣旨ニ  
依リ日本商人ノ協力方ニ付斡旋ヲ願度シト述ヘ居タルカ

(右ニ對シテハ其ノ後ニ於ケル張ノ出方ヲ見タル上改メ  
テ考慮スヘキ旨當時船津ニ申聞ケ置キタリ)其ノ後張ハ  
北方ヨリ廬山南京ヲ經テ歸寧ノ上九日船津ニ會談ヲ求メ  
前記申出ニ言及シ

日本商人側ノ意嚮ヲ質シタルニ付船津ハ右ニ付テハ商人  
側ヨリ本店ノ意嚮ヲ尋ねタル上ニテ返事スヘシト答ヘタ  
ル處張ハ本件ハ實ハ中央銀行側ノ依頼モアル次第ナレハ  
何トカ早目ニ日本商人側ノ意嚮ヲ承リ度シト述ヘタル趣  
ナリ

三、本件ニ付テハ前記一ノ事情ヲモ考慮ニ入レ(本件ニ依り  
宋子文邊リヲ引付クル事カ餘リ問題トナラサル事ニ付テ  
ナリ)

尙前記新聞發表中ニハ Dupont 武器製造會社ハ支那ニ對シ  
武器賣込ニ於テ特別ノ「コミツシヨン」ヲ支拂ヒタル旨ノ  
陳述モアリタルニ付右ニ付テモ内査シタルカ委員會ハ國際  
關係ヲ顧慮スル要アリトテ關係者ニ右受賄者ノ指名等ヲモ  
爲ササル様特ニ注意セル次第モアリ又國務省側モ本件ニ付  
何等口外スルヲ憚リ居ル模様ナルヲ以テ右ハ當地ニ於テ探  
査スルコト困難ナリ何等御参考迄

384 昭和9年9月22日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

張公權による借款米棉の日本側買入れ要請に

本省 9月22日後3時30分発

## 第二四八號

## 貴電第七五九號ニ關シ

一、張公權ノ申出ニ應スルコトノ可否ニ付テハ慎重考慮ノ要アルニ付差當リ(イ)乃至(ホ)等ノ點船津ヲシテ可然張ニ問合ハシメラレ結果回電アリ度

(イ)支那政府ノ購入セル借款米綿ノ總量如何

(ロ)右總量ノ内既ニ處分濟ノ分ハ何程ナリヤ

(ハ)未處分ノ中中綿公司ニテ處分ヲ引受ケムトスル數量如何

(二)日本商人カ協力ニ應スルトスレハ協力ノ條件如何(例ヘハ利益均分トハ如何ナルコトナリヤ)

(三)客年十一月十五日附貴信機密第四一四號附屬契約書第

三條(其ノ後改訂ニ伴ヒ變更ノ有無不明)トノ關係如何

三、尙支那紡績ノ苦シマギレノ策動ニ依リ今後支那側カ統稅率ノ變更補助金其ノ他何等カノ形ニテ在華紡ニ不利ナル

措置ニ出テ來ルカ如キ懸念ナキヲ保セサル次第ナル處  
(南京來電第四五二號南京來信第二一九七號等)我方ニ於テ

385 昭和9年9月26日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

北平、南京へ轉電セリ

借款米綿処分に関する張公權の要請を容れ孔祥熙の我が方に対する好意的態度助長方につき意見具申

ノ實情ヨリ見テ看過シ難キ點ナリト思考ス

二、將又張公權カ從來周圍ノ反對ニ拘ラス眞先ニ我方ト接觸ニ努メ來リ居ルコト亦御承知ノ通リナルカ殊ニ最近ハ當地兩國實業家ノ接近ヲ斡旋シ居リ既ニ同人ノ盡力ニテ鮮銀總裁ノ來滬ヲ機トシテ當地支那銀行家巨頭十七名主催者トナリ我方實業家ヲ招待シ我方亦之ヲ招返シ居リ之カ爲著シク兩國關係ノ好轉ヲ促進シ居ル狀態ナルカ此ノ際張ノ申出ヲ拒絕スルニ於テハ其ノ反動的惡影響ヲ避ケ難カルヘシト存セラル

三、貴電ノ御趣旨ハ尤ノ儀乍ラ張ニ質スヘキ各項ノ内(イ)乃至(ロ)ハ累次ノ報告ニ依リ大体ノ數ハ之ヲ確メ得ヘク「ハ」ハ萬一借款契約ニ違反セハ支那側ニ於テ責任ヲ負フベク我方ニ影響無キ次第ニシテ其ノ他ノ事項ニ付テモ我方ニ於テ張ノ申出ヲ主義上認メ得ル場合ハ兎ニ角右不明ノ下ニ於テ之ヲ質スコトハ機微ナル關係上考ヘモノナルヤニ存セラルニ付前記ノ事情及前電申進ノ通り本件ニ付テハ既ニ略我方ノ目的ヲ達シ居ル點ヲ篤ト御考察相成リ少クトモ當業者ヲシテ速ニ張ニ對シ本件申出ニハ主義上異存無キ旨ヲ言明セシメタル上當方ニ於テ貴電三ノ御趣

電第七五九號、二末段ノ外南京發閣下宛電報第九五七號末段ニ依リテ明カナルヘク孔ノ我方ニ對スル態度カ漸次好意的トナリ居ルコト關稅問題賠償金支拂等ニ依リ御承知ノ通ナルカ往電第七八一號岸本問題水先問題交通銀行借款問題等ニ付今後同人ノ好意的考量ヲ求ムル必要多々アル事情ニモ鑑ミ此ノ際當業者ヲシテアツサリ本件張ノ申出ヲ認メシメタル上前記諸問題ニ對スル先方ノ出方面白カラサルニ於テハ改メテ協調ヨリ手ヲ引カシムルコト寧口機宜ノ策ト認メラル尤モ我方ニ於テ本問題ニ付當分煮切ラヌ態度ヲ執リ之ニ依リ前(記)諸問題ノ解決ヲ有利ニ導クコトハ理窟トシテハ考ヘ得ルモ今日迄各種問題ニ付我方ノ要求ノミ認メシムルニ努力シ來レル關係及先方ニ於テ兩國經濟提携ノ先驅トシテ我方ノ援助ヲ切望シ居リ(張ハ其ノ後中央銀行ヨリセツツカレ居ル趣ヲ以テ頻リニ船津ニ督促シ來リ居ル由ナリ)然カモ我方當業者ノ利益トナルコトヲ考フル時ハ少クトモ本問題ニ付テハ先ツ先方ノ希望ヲ容レ其ノ好意的態度ヲ助長スルコト適當ナルヘク之ヲ若シ拒絕スルカ如キコト有ラハ先方ヲシテ自暴自棄的態度ニ出テシムル危險有ルヘク右ハ現地今日

張公權ノ申出ニ應ストセハ其ノ條件トシテ張等ノ盡力ニ依リ右懸念ノ點ニ對スル適當ノ保證ヲ取付ケ得レハ多少ノ利益分配(例ヘハ手數料)ヨリモ在華紡ニトリ有利ナラスヤトモ思考セラル處此ノ邊ニ付船津等ノ意嚮御確メノ上併セテ回電アリタシ尙又在華紡カ張ノ申出ニ應スル場合在貴地日本綿花商トノ關係如何ニ付テモ御取調回電アリ度

張公權ノ申出ニ應ストセハ其ノ條件トシテ張等ノ盡力ニ依リ右懸念ノ點ニ對スル適當ノ保證ヲ取付ケ得レハ多少ノ利益分配(例ヘハ手數料)ヨリモ在華紡ニトリ有利ナラスヤトモ思考セラル處此ノ邊ニ付船津等ノ意嚮御確メノ上併セテ回電アリタシ尙又在華紡カ張ノ申出ニ應スル場合在貴地日本綿花商トノ關係如何ニ付テモ御取調回電アリ度

旨其ノ他必要ナル指示ヲ與ヘテ張ト協同方話ヲ進メシム  
ルコトト致度何分ノ儀折返シ御回訓ヲ請フ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

(欄外記入)

趣旨尤ト考エラル

386 昭和9年9月29日 広田外務大臣より  
在中國有吉公使宛(電報)

借款米棉処分に関する張公権の要請に対し我  
が方の中国経済に及ぼす実力誇示に重きを置  
き慎重に対応方訓令

本省 9月29日後4時30分発

第二六〇號(極秘)

貴電第七八二號ニ關シ

一、貴電(一)御來示ノ如キ事情ハ當方ニテモ充分考慮シ居ルモ  
一方本件ハ我方カ從來ノ態度ヲ緩和セルヤノ印象ヲ與ヘ  
惹テハ支那側ヲシテ又々此ノ種不純ナル外支合合作ノ反覆  
續行ヲ企圖セシムルカ如キ結果トナル惧モアリ(南京來  
電第九五九號末段ノ如キモ日本ノ助力ニ依リ「クレ代イ

ト」増加ヲ計ラントシ居ルヤニモ解セラル)旁々慎重考慮  
ヲ加フル必要アル次第ナリ  
二、從テ假令先方ノ申出ニ應スルコトニ結局相成ルトスルモ  
其ノ場合ニハ支那側ニ對シ我方ノ援助ナクシテハ此ノ種  
計畫カ成功シ得サルコトヲ認識セシムル點即チ支那側ノ  
經濟工作ニ及ホシ得ヘキ我方ノ實力ヲ示ス點ニ重キヲ置  
クヘク且苟モ前記一ノ如キ結果トナラサル様嚴ニ注意ス  
ル要アリ之カ爲ニモ直チニ話ニ應スルコトナク其ノ間充  
分先方ノ誠意ヲ確ムルコト然ルヘク(且我方カ難色ヲ示  
スコトハ我方ノ棉麥借款ニ對スル反對カ如何ニ根強キモ  
ノナルカラ印象セシムル結果トナルヘシ)又當業者トシ  
テモ相當先方ヲジラシテ協力ノ條件ヲ有利ナラシム方得  
策ナルヘシ

三、就テハ船津ヲシテ「棉麥借款ニ對スル日本國民ノ反感ハ  
相當深刻ナルモノアルヲ以テ在華紡ニ於テ張公権ノ申出  
ニ應シタル結果支那ト米國等トノ間ニ又々全種ノ「クレ  
デツト」等成立スルカ如キ機運トナルコトアラムカ日本  
ノ輿論ハ在華紡ヲ攻撃スヘシ從テ右様ノ懸念ナキコト確  
實ニシテ且協力ノ條件カ妥當ナルモノナラハ本件申出ニ  
ノ結果左ノ通

一、貴電三及四ノ御趣旨ヲ船津ニ申含メ同人二日朝張ト話合  
付考慮ヲ加ヘ見ルヘシ」ト云フカ如キ趣旨ニテ先方ニ應  
酬シ往電第二四八號ノ諸點ヲ確メシメラルコトト致度  
四、右往電中(イ)及(ロ)ハ累次ノ情報ニ依リ推察ニ難カラサルモ  
先方カ如何ナル程度迄眞實ヲ打明ケ來ルカラ試ス一助ト  
ナルベク(ホ)モ亦元來先方ヨリ原契約及改訂契約等全部ヲ  
提示シ相談シ來ルヘキ筋合ナルノミナラス原棉又ハ製造  
品ノ再輸出先制限ノ如キ豫メ此ノ點ヲ突込ミ置ク方將來  
問題ノ發生ヲ避止スル所以トナルヘシ

北平、南京へ轉電セリ

387 昭和9年10月2日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

借款米棉の邦商買入れ要請に關し船津理事よ  
り張公権に対し同借款に対する我が方意向徹  
底について

上 海 10月2日後発

本 省 10月2日後着

第八〇四號(極秘)

貴電第二六〇號ニ關シ(借款米棉日支商協力處分ノ件)

日ノ爲ニ使用セラル懸念ナク(船津ヨリ同様ノ質問ヲセリ)西北開發水利事業等ニ依リ農民ノ購買力増進セラレ其ノ結果日支貿易ノ増進ニ資スルコトナルヘシト思ハル

(<sup>(3)</sup>)

(イ) 買入棉花ハ既ニ處分済ノ最初ノ五萬俵ヲ別トシ其ノ後輸入サレタルモノ七萬俵ハ其ノ儘手持品トナリ居リ其ノ外未着ノ三萬俵ヲ加ヘテ約十萬俵カ處分ヲ要スルモノナリ(二)借款契約ニテハ棉花ノ外國ヘノ再輸出ヲ禁スルモ製品ニハ別ニ制限無シト記憶スト述ヘタルニ付船津ヨリ自

分ハ確ナラサルモ製品ニモ制限アリト聞込ミ居レリト念ヲ押シタルニ張ハ其ノ點ハ取調返事スヘシト述ヘタルカ

後刻中央銀行ニテ確メタル趣ヲ以テ契約第三條ノ「テキスト」客年十一月十五日附拙信機密第四一四號附屬ト同文ヲ呈示シ契約ニハ製品ノ再輸出ニモ制限アルモ右ハ

Appreciable quantity トアレハ小部分(日本紡績ノ再輸出ハ滿洲カ大部分ニテ南洋印度ハ小部分ナル趣ナリ)ノ輸出ナラハ問題トナラス

萬<sup>(4)</sup>米國側ヨリ問題トスルコトアルモ右ニ依リ充分説明シ得ヘク決シテ日本側ニ迷惑ヲ掛ケスト説明シ本件好意輸出ナラハ問題トナラス

一米國側ヨリ問題トスルコトアルモ右ニ依リ充分説明シ得ヘク決シテ日本側ニ迷惑ヲ掛ケスト説明シ本件好意

計畫ノ成否ニ及ボシ得ヘキ我方ノ實力ヲ認識セシムル點ニ重點ヲ置クト共ニ今後支那側カ又々不純ナル外支合作ヲ試ミニムトスルカ如キ場合ニハ我方ハ即時本件協力ヨリ手ヲ引クヘキノミナラス進ンテ妨害ヲ加フルノ止ムヲ得サルニ至ルヘキコトヲ機會アル毎ニ支那側ニ撤底<sup>(被)</sup>セシムル氣持ニテ進ムコト肝要ナルニ付右含ニテ當時船津ヲ指導セラレ度尙本件話合ハ今暫ク本店ノ意嚮ヲ留保シツツ協力ノ條件等ニ付船津限リノ話トシテ進メシムルコトト致度

(二) 尚本件借款綿ハ相當巨額ニ達スルニ付直チニ右全量ノ處

分ニ付協力ヲ「コミット」セス在華紡ノ必要額ヲ隨時購入スルコトスル方前記(一)前段ノ趣旨ニ依リ支那側ヲ操

縱スル上ニ於テ有利ト考ヘ居ル次第ナル處(之カ爲ニハ冒頭貴電一末段ノ如ク借款棉賣捌機關ニ加入セス中綿ヨリ普通ノ取引ニ依リ購入スル形トスル方可ナラスヤトモ考ヘ居レリ)此ノ邊ハ往電第二四八號(二)ト共ニ貴見回報

アリ度シ

北平 南京へ轉電セリ

~~~~~

的考量ノ斡旋方ヲ依頼セル趣ナリ尙(二)協力ノ條件ニ付テハ張ハ支那側ハ中棉公司ヲ代表トスルカ日本側ニテモ棉花商三社ヲ一團トシテ之ト中棉ト合作シ度其ノ條件ハ追テ協定シ度シト述ヘ居タル趣ナリ

三、前記張公權ノ説明ニ依リ同人ニ於テハ相當誠意ヲ以テ本件合作ヲ切望シ居ルコト大体明白ナリト存セラルニ付

右ノ「ライン」ニテ話ヲ進メシメ差支無キヤ御回示ヲ請フ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~

388 昭和9年10月5日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

借款米棉処分に関する張公權要請に対し我が方右ノ「ライン」ニテ話ヲ進メシメ差支無キヤ御回示ヲ請

態度緩和の印象を与えない範囲で協力方訓令

本省 10月5日後6時20分発

第二六六號(極秘)

貴電第八〇四號ニ關シ

(一) 右貴電ノ「ライン」ニテ話ヲ進メシメラレ差支ヘナシ但

右話合ニ當リテハ往電第二六〇號ノ通支那側ヲシテ斯種

付記一 昭和十年一月二十三日發廣田外務大臣より在中國有吉公使宛電報第二〇〇號  
ボルカート社による借款棉買取り事情につき  
ボルカート社による借款棉買取り事情につき  
通報

389 昭和9年11月2日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

ボルカート社による借款棉買入れについて

付記一 昭和十年一月二十三日發廣田外務大臣より在中國有吉公使宛電報第二〇〇號  
ボルカート社による借款棉買取り事情につき  
ボルカート社による借款棉買取り事情につき  
通報

二 昭和十年四月三日發在米國齋藤大使より廣田外務大臣宛電報第一六九號  
借款米棉は一先ず終結とのRFC總裁發表について

借款米棉の末路に関する棉花商の調査報告送付について

三 昭和十年七月十九日發在中國橫竹大使館商務參事官より廣田外務大臣宛公信商機密第二二七號  
借款米棉は一先ず終結とのRFC總裁發表について

借款米棉の末路に関する棉花商の調査報告送付について

借款米棉の末路に関する棉花商の調査報告送付について

上海 11月2日後発

本省 11月2日後着

~~~~~

(二六六) 接到ト共ニ先月七日張ニ對シ更ニ貴電ノ趣旨ヲ説明シ

テ日本側ニテハ本件合作ハ久シキ以前ニ中央銀行當局ヨリ  
賴マレタルカ今回漸ク貴方ト話合出來タル次第ナレハ更ニ

中央銀行ノ意嚮ヲモ確メタル上改メテ本件ヲ協定スヘシト

述ヘタルカ同日午後張ヨリ船津ニ對シ日本商人側ニテハ既

ニ三萬俵餘ノ借款棉ヲ買入レ居ルヤノ聞込アルカ何等心當

リ無キヤト訊ネ來リタルニ付直ニ當方ニテ各社責任者ニ付

嚴重取調ヘタル結果ハ十月十八日附商務官來信公機密第一

七號ノ通ナルカ(張ニハ船津ヨリ右ノ趣通知セリ)從來ノ我

方態度ヲ熟知セル「ボルカート」カ此ノ際大量ノ借款棉ヲ

買入ルルヤハ頗ル疑ハシク右ハ或ハ本件合作ノ條件ヲ有利

ニセン爲ノ支那側ノ宣傳ナルヤニモ考ヘラレタルヲ以テ我

方當業者ニ對シ更ニ警告シテ引續キ注意シ居ルモ其ノ後支

那ヨリハ何等申出無キ處數日前米國農務官「テーラー」他

用ニテ船津ヲ來訪ノ節「ボ」社ハ借款棉ノ全部(未着ノ分ヲ

モ含ム)ヲ買入レタルコト及右ハ風水害ニ依ル日本内地ノ

需要ニ當込ミタル外借款棉ノ處分難ニ鑑ミ日本側ヲシテ充

分値引セシメタリトモ考ヘラルル旨ヲ極祕ノ含ミトシテ内

話シ居タル趣ナリ(右出處極祕トセラレタシ)

ニ右「ボ」社ノ買入ニ付テハ尙疑ノ餘地アルモ當方ニ於テ  
ハ當地紡績及棉花商側ニ對シ「ボ」社其ノ他ヨリ借款棉ヲ  
絕對ニ買入レサル様充分注意シ居ル處「ボ」社ニ於テ借款

棉ノ日本内地積出ニ付支那側及米國側ノ了解ヲ得タル上買

入レタルヤノ報モアリ旁阪神方面當業者ニ注意方御手配ヲ

請フ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

#### (付記一)

本省昭和10年1月23日後6時発

第一〇號

最近米國經由歸朝セル。○瑞貿易(「ヴォルカート」)ノ日本會  
社社長Rutzハ本月上旬若松ニ對シAmerican Cotton  
Cooperative Association(全米棉花業ノ統制機關)ハ在華  
日本紡績ノ態度ニ基因スル借款棉十萬二千俵ノ滯貨ハ米棉  
ノ賣行ニ惡影響アルニ付之ヲ買取ル要アリトノ見解ヲ有シ  
ACCノ「エジエント」タル「ヴォルカート」トシテハACC  
ノ意見ハ尊重セサルヲ得サルニ付ACCノ「アカウン

ト」ニテ之ヲ引受ケタルモノナルカ當時自分カ不在ナリシ  
爲豫メ日本側トノ聯絡充分ナラス申譯ナキ次第(「ヴォル  
カート」トシテ對曰關係ヲ特ニ重要視スル次第ヲ陳辯セリ)  
ナルカ歸朝前米國ニ於テACCヨリ在華日本紡ニ對シ借款  
棉購入方交渉ラ依賴セラレタル旨ヲ述ヘタルニ付若松ヨリ  
日本側ニテハ米支間ノ取引ニ彼レ此レ言フ譯ニハ非サルモ  
支那側カ棉麥借款ヲ政治的ニ利用セントスル事實ニ鑑ミ在  
華紡ニ於テ借款棉不買ノ態度ニ出テ居ル次第ニシテ此ノ種

借款カ「リピート」セラレサルコトヲ期待シ居ル次第ナル  
旨ヲ述ヘタル處「ル」ハACC自身棉花借款ニ反対ニシテ  
米國政府モ今回ニ懲リ再度斯ノ如キコトヲ爲スコトナカル  
ヘシト説明シ又十萬俵ハ引續キ滯貨トナリ居リ日本ニ再輸  
出セラレタルモノナキ旨ヲ述ヘ之カ處分ニ付キ若松ノ意見  
ヲ求メタルニ付上海ニテ公使館側及船津氏等ニ一切ヲ打開  
ケテ相談スルコト然ルヘキ旨ヲ申聞ケ置キタル由

尙若松ノ求メニ依リ「ル」ノ内密提出セル十二月廿一日附  
ACCノ「ル」宛書面(郵送ス)ニハACCハ目下RFC  
對シ對支借款契約變更方交渉中ニシテ交渉成功セハ貴下  
(ル)ニ於テ日本商社ニ對シ在華日本紡ノ消費ノ爲借款棉ノ  
四 中国をめぐる列国との関係

#### (付記二)

ワシントン 昭和10年4月3日後発

本省昭和10年4月4日前着

第一六九號

紐育「タイムス」華府特電ニ依レハR、F、C、總裁「ジ  
ヨーンズ」ハ棉麥借款ノ取引ハ一先ツ終結セル旨並ニ今日  
迄ニ支那側ノ使用セル額ハ棉花(一五九、五三六「ペール」)  
ニ對シ一千萬弗但シ内二、一〇四、八七三・五五弗ハ返金濟  
ニテ又小麥(一〇、七六九、三四〇「ブッシュエル」)ニ對シ六百  
萬弗及麥粉(三三一八、〇〇〇「バレル」)ニ對シ一、一〇五、三  
八五・八〇弗ナルカ是等ハ未夕返済期限ニ達シ居ラサル處

R、F、C、トシテハ本件借款ハ確實ナルモノト見居ル旨  
發表セル趣ナリ  
英、紐育ニ郵送セリ

(付記III)

商機密第二二七號

(昭和10年7月30日接受)

昭和十年七月十九日

上海駐在商務參事官

橫竹 平太郎〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

宋子文借款米棉ノ末路ノ件

本件ニ關シ當地江商株式會社支店ヨリ別紙ノ如ク調査報告  
アリ御参考迄ニ御報告申上グルニ付御查閱相成度

本信寫送附先 大使、上海、南京

昭和拾年六月十六日、

本社調査課 御中

宋子文借款米棉ノ末路

一九三三年六月突如發表セラレタル宋子文ノ五千万米弗棉ノ

消費ノ項ヲ取消シ海外輸出ヲ認メシムルニ就而ハ前ホル  
カート上海支配人 C. L. Wanger ノ米國ニ於ケル運動奏  
功ノ結果ナルベシト云ハル、而シテ現在ノ支那紡績ノ疲弊  
ノ程度ヨリ見テ在荷二万四千俵ノ處分ハ少クトモ向フ一ヶ  
年以上ヲ要スペク殊ニ最近ノ米棉高、支那棉安ハ借款棉ノ

廉價ヲ以ツテスルモ尙不利ニシテ殊ニ支那人紡ニテ使用セ  
ザル時以上ノ毛筋物多キ爲結局海外ニテ處分セラル外無  
キモノト思ハル。

~~~~~

合計一万七千俵ニシテ六月末日ノ上海在荷ハ二万四千俵差  
引五万二千俵ハ海外ニ再輸出セラレタリ再輸出ハ一九三四  
年十二月佛領印度支那ヘ仕向ケラレタル三千俵ヲ最初トシ  
テ Haiphong 向合計一万三千俵 Bremen 一万三千俵  
Gdynia 再一万五千俵ニシテ之ガ當初ノ契約タル支那ニテ